

一般質問

(一般質問は
2面・3面にも掲載)



将来の若者のために 安心して子どもを産める医療体制を

自民・新政 風間 正子

一 八木病院の新築移転について
問 新築移転の延期理由は、建設費高騰などとのことだが、医療法人杏林会の取引金融機関との協議に参加する必要はなかったのか。
答 医療法人の財務状況は適宜確認しているが、市有地の賃貸借など契約締結前の段階で、協議することは適切ではないと考える。



安心して子どもが産める環境を

問 新築移転には産婦人科開設が前提で、分娩業務には増床が必要である。医療法人と県の手続きへの、本市の協体制度はどのようか。
答 医療法人と県の事前協議前から、関係課と調整を行っている。

問 新築移転計画における本市の意思決定プロセスはどのようか。
答 政策会議への付議を通して行っている。事務レベルの協議は、市有地の取り扱いなど、関係課と打ち合わせをしながら進めた。

問 庁内に検討組織を設置するなど横断的な取り組みが必要と考えられる。また、市有地の取り扱いは、政策会議で協議していく。



認知症施策の強化で 安心して暮らせる地域づくりを

公明党 横山 むらさき

一 認知症施策の強化について
問 新オレンジプランで、2025年に認知症高齢者が全国で約700万人と推計され、交通事故や徘徊による行方不明など、さまざまな混乱が予想される。本市での認知症の早期発見と対応、認知症サポーターの育成はどのようか。
答 認知症初期段階で適切な医療や介護サービス支援につなげるため、専門職で構成する初期集中支援チームの実施体制を整えた。また、平成29年度末までに1万人の

認知症サポーターの養成に努め、併せて質の高いキャラバン・メイも育成することで、地域の見守り体制を強化していく。
要望 ひとり暮らし高齢者などを対象にした安心カードの情報を行政が把握し、迷い高齢者SOSネットワーク事業を強化してほしい。

二 森林資源の活用について
問 地場産材PRのため①駅舎への利用は、②※木育の取り組みは、③木質バイオマス活用はどうか。
答 ①鶴巻温泉駅施設の内装や秦野サービスエリア(仮称)の施設

に秦野産材の活用を働きかけている。②木育は乳幼児期に木質と触れ合う取り組みなどを民間企業の協力を得て実施できないか調査・研究する。③木質バイオマススト

ープのさらなる普及に努める。
三 市営住宅の公募について
要望 市営薬師原団地の入居率は約60%と空き室が多いため、早期に入居募集の検討をしてほしい。



国1049兆円、県4兆円 市820億円の借金、これでいいのか

民政会 阿蘇 佳一

一 責任ある未来について
問 ①秦野赤十字病院は、昭和大学の産婦人科医師、東海大学の小児科医師の引き揚げと聞くが、分娩再開のめどは、②八木病院の産婦人科の開設、新築移転の時期を延期と申し入れがあったが、計画断念ではないのか。市側のチェック体制の問題は、③市の貯金は31億円、借金820億円、未収金は37億円、平成29年度は約25億6000万円の財源不足、厳しい財政状況における対策は、どうか。
答 ①横浜市立大学の医局に属する、次期院長・田中克明内科医師による内科強化にも期待し、関係機関がそれぞれ産婦人科医師確保に取り組む。②この段階で期待に応える結果とならず、お詫び申し上げる。新築移転に向けた、新病院の資金計画を確認していく。③人件費の削減、適正な欠損処理を含む未収金対策の強化、広告収入の確保などに取り組む。



借金820億円、今後の対策は (写真は市役所本庁舎)

二 安心して安全なまちづくりについて
問 ①登校中の通学路で大変悲惨な事故が相次いでいるが、②横浜市のいじめ問題で、福島県から避難した子どもたちへの配慮不足は、教育現場や事務局の教育放棄と言われたが、本市の対応はどうか。
答 ①学校、PTA、関係機関と連携をしっかりと取りながら、安全対策を進める。②個々の児童・生徒の気持ちに寄り添った対応を徹底し、危機管理意識を高めていく。

**名水はだの富士見の湯の運営に
市内事業者や地元農家が参入できる対策を**

自民・新政 今井 実

一 名水はだの富士見の湯の運営について
問 指定管理者候補の選定は、最も重要であると考えられるが、その候補者を選定する委員の構成はどのようか。
答 企業経営の健全性を判断できる者や公共施設の管理などの知識を有する者、また、地元自治会代表者などの5人で構成している。

問 指定管理者が売店や食堂も運営するようだが、本市の名産品の展示販売や地場産野菜の販売などの取り扱いはどのようか。
答 指定管理者の募集に伴う業務仕様書に、名産品や地場産野菜の展示販売を行うことを明記した。今後、指定管理者と締結する契約書にも、明記していきたい。

要望 市内事業者の経営の安定は、地域活性化にもつながるため、本市の税収も増えると考えられる。今後も、市内事業者の多くが参入できる機会を設けてほしい。



早期に入居募集の開始を (写真は市営薬師原団地)



市民の健康づくり なお一層の推進を

緑水クラブ 高橋 文雄

一 市民の健康づくりについて
問 本市では、以前から病気になるための体づくりに取り組んでいるが、①重点施策は、②検診では判明しない血糖値スパイク対策は、どのようか。
答 ①壮年期死亡を減少させ、健康寿命延伸を図るため、健康はだの21に基づき、健康を支援するコミュニティの実現、食を通じた健康づくりの実現、運動習慣の確立、生活習慣病の改善、病気の予防などに努めている。②食後に血

糖値が基準値を超えて上昇し、その後急激に下がる状態を血糖値スパイクというが、この状態を放置すると重度の糖尿病になる。検診の実施とバランスの良い食事、適度な運動が必要であるため、予防講座などを実施している。

二 農業振興について
問 里山や農地の荒廃化、狩猟者の高齢化、禁猟の区域や期間の課題など、鳥獣被害増加(参考・イノシシ駆除数、本市直近3年平均38頭、大磯町平成28年11月時点128頭)の原因は判明しているが、対策はどのようか。
答 箱根研修会やハンター塾の開催、狩猟免許の更新および取得時に補助金の交付、講習免除規定の適用、西・上地区における駆除区域拡大などを行ってきた。今後も県、JA、猟友会などと駆除を進めていく。



災害に備え、無電柱化の推進を

自民・新政 相原 學

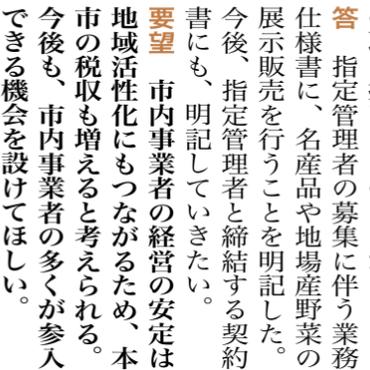
一 無電柱化について(その2)
問 緊急輸送道路を優先して、無電柱化を進めるとのことだが、現在の状況はどのようか。
答 市道6号線の本町小学校南門

から秦野橋間の事業を進めている。平成27年度から歩道拡幅に必要な用地交渉を行っており、30年度から電線類を地中化する電線共同溝事業に着手できるよう、取り組んでいく。

二 秦野サービスエリア(仮称)の周辺整備について
問 新東名高速道路に併せてスマートインターチェンジも同時開通することから、県立秦野戸川公園の来園者などの増加が見込まれる。違法駐車を防止する上でも、新たな駐車場の整備が必要であると考える。整備はどのようか。
答 保安林などがあり、ハードルの高い法規制もあることから、具体的なルートなどについて、関係機関と調整を進めている。

要望 新東名高速道路建設に伴い、上地区に工事用道路が整備されているが、地元から開通後も引き続き利用したいとの要望があるため、検討をしてほしい。

無電柱化の推進を



名水はだの富士見の湯完成イメージ図



箱根研修会



無電柱化の推進を

用語解説 ※木育…子どもをはじめとするすべての人が、「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取り組みのこと。